



大砂土小だより

学校教育目標「自ら学び、考えて行動する児童の育成」
～ 認め合い、学び合い、共に育つ ～

<目指す児童像>

かしこい子(知) 明るい子(徳) たくましい子(体)

コミュニケーションを図ることにより、

互いを認め、高め合い、ともに伸びる子

TEL 663-7005

FAX 663-9886

平成30年 2月 1日第10号

大砂土小学校 ホームページアドレス <http://osato-e.saitama-city.ed.jp/> メールアドレス osato-e@saitama-city.ed.jp

梅は寒苦に耐えて咲く～春告草～

校長 書上 敦志



大寒を過ぎたというのに、4年振りの大雪の影響が厳しい寒さが続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか。

職員玄関に職員の自宅に咲いた艶のある黄色い可憐な花びらをつけた蠟梅がよい香りを漂わせてくれています。花びらがまるで蠟細工のようであり、且つ臘月(ろうげつ:旧暦12月)に咲くからこの名がついたそうです。名前に梅がついているためバラ科サクラ属と思っておりましたが、クスノキ目・ロウバイ科・ロウバイ属に属する広葉の落葉低木の一つだそうです。

さて、話の本題に入ります。花といえば今では「桜」をイメージする方も多いかと思いますが、昔は「梅」が一般的だったようです。万葉集では梅について百首以上が詠まれており、植物の中では「萩」に次いで多いそうです。薔薇科サクラ属ウメ(梅)。1月1日と2月3日の誕生花で、花言葉は「厳しい美しさ、あでやかさ」。

その梅の木は、春まだ遠いという季節に雪中に早々とつぼみを膨らませます。寒さの苦しみに耐えて結果としてほかのどんな花よりも早く私たちに春を感じさせてくれます。

「梅は寒苦に耐えて咲く」…私たち人間が成長していく過程でも同じようなことが言えるのではないのでしょうか。「小さい子には旅をさせろ」「若いころの苦労は買ってでもしろ」と、先人たちは昔から人間形成を図るうえで経験上効果があることを言葉に残してくれています。子どもたちは、家庭、学校、地域で様々な経験を積んでいきます。毎日楽しいことばかりではありません。ときには、辛いことを我慢したり、悔しい思いを味わったりもします。そういった厳しい経験を一つひとつ、一年一年積み重ねながら、少しずつ太くしっかりとした芽を出し、つぼみを膨らませます。社会に出るまでに素敵な大輪を咲かせる準備をしなければなりません。そういう力を私たち大人が協力し合い、ときに温かく、ときに厳しく見守りながら、大砂土っ子一人ひとりを大切にはぐくんでいきたいと考えます。

学校のしだれ梅に、雪の中で来るべき春に精一杯綺麗な花を咲かせようと耐えているつぼみを見つけました。大雪の後の厳しい寒さの中、元気に登校する大砂土っ子と重なりました。梅の木は別名「春告草(はるつげぐさ)」、立春を迎え暖かくなり可愛らしい花を愛でる日が来るのが待ち遠しい今日この頃です。



先日、大砂土地区自治連合会新春の集いにご招待されました。お正月らしい賑やかで楽しい会でした。地域の方が作った手彫りのお面の笑顔と踊られた舞に感動し、お開きの後、一緒に写真を撮り握手をさせていただきました。きっと数々の厳しさを乗り越えた方だけが知る優しさをもった方なのだろうなど、柔らかく温かな手のひらから感じました。

【学校教育ビジョン:「夢いっぱい 笑顔いっぱい ひとみ輝く大砂土っ子」の育成】

※地域の皆様、大雪の際は、通学路の雪かきありがとうございます。